国土交通省
関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.
Press Release

令和７年４月２４日
利根川水系渇水対策連絡協議会
（事務局:関東地方整備局）

令和７年度 第１回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会（春季定例会）の開催結果について

令和７年４月２４日に開催した令和７年度 第１回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会（春季定例会）の開催結果をお知らせいたします。

１．開催状況

日時 ： 令和７年４月２４日（木） １０：００～１１：００
場所 ： Web 会議
構成 ： 国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
目的 ： 利根川水系の渇水時における円滑な水需要の調整を図るため

２．開催結果

別紙のとおり

＜発表記者クラブ＞ 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ 千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ 刀水クラブ･テレビ記者会 水資源記者クラブ

＜問い合わせ先＞
関東地方整備局 河川部 電話：０４８－６０１－３１５１（代表） FAX：０４８－６００－１３７９
河川環境課 課長 藤原（内線：３６５１）
建設専門官 田島（内線：３６５２）
水政課 水政調整官 森岡（内線：３５１５）
課長 井上（内線：３５５１）
課長補佐 菅間（内線：３５５７）

別 紙

現状と今後の対応

（１）現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況

  1 月の降水量は 24㎜（平均値に対する割合 55%）

  2 月の降水量は 45㎜（平均値に対する割合 95%）

  3 月の降水量は 90㎜（平均値に対する割合 130%）

  4 月 23 日 0 時までの累加降水量は 79㎜（4 月の月間降水量の平均値は 90㎜）

- 積雪の状況（4 月 23 日 9 時現在）

  藤原ダム地点　積雪深 0cm（4 月 15 日消雪）

  尾瀬沼地点　　積雪深 158cm（平均値 167cm の 95%）

- 利根川上流 9 ダムの貯水状況（4 月 23 日 0 時現在）

  貯水量は同時期の平均値を上回っています。

  貯水量 4 億 3,747 万 m3、貯水率 79%、平均値に対する割合 119%

（２）今後の見通し

- 気象庁発表の 1 ヶ月予報（令和 7 年 4 月 19 日から令和 7 年 5 月 18 日までの天候見通し）によると、降水量は「多い」と「平年並」の確率は合わせて 60%となっています。
- 9 ダムの内 5 ダム（藤原、相俣、薗原、八ッ場、草木）は満水となりましたが、今後、農業用水の利用が徐々に増加し、ダムからの放流量が増え貯水量が減少する時期になります。本年は降雪が多く雪解け水が期待できるところですが、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少していくことも考えられます。
- 鬼怒川上流 4 ダムの貯水量は、現在、同時期の平均値を上回っていますが、今後は農業用水の利用が急増するため、ダムの貯水量が減少することが見込まれます。更に、降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少することも考えられます。

（３）今後の対応

- 利根川上流 9 ダム、鬼怒川上流 4 ダム等は、上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮するとともに、既存施設を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。
- ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、令和 3 年 12 月 16 日に策定した利根川水系渇水対応タイムラインに基づき関係機関による協議の下、機動的に行っていきます。

資　料

令和７年度 第１回利根川水系渇水
対策連絡協議会幹事会（春季定例会）

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて

奥利根湖と利根川源流の山々（令和７年４月１４日撮影）

令和７年４月２４日

関 東 地 方 整 備 局

１．利根川上流９ダム等の現状

（１）利根川

１）栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和 7 年 4 月 23 日 0 時までの降水量）

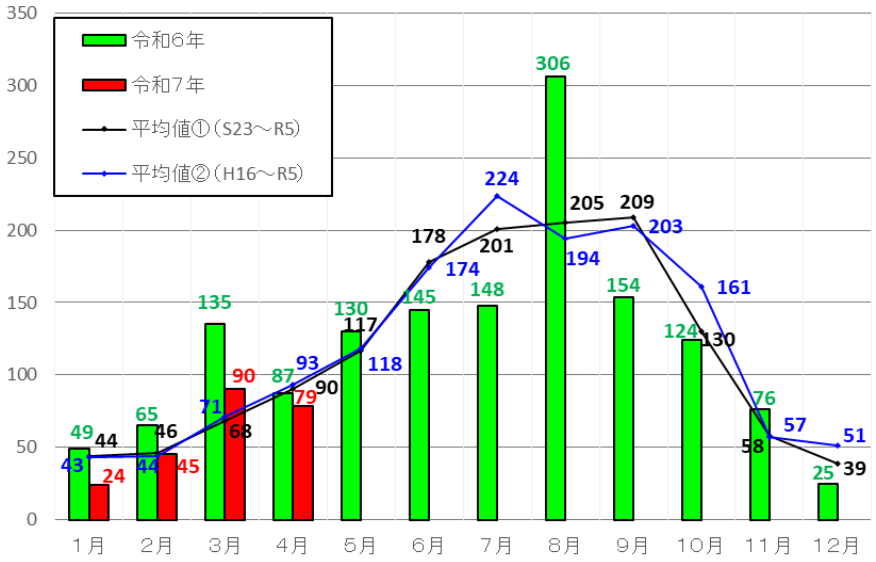
《令和 6 年》

10 月は 124mm（平均値（昭和 23 年～令和 5 年の 76 年間の平均）130mm）と平均並みの降水量であり、11 月は 76 mm（平均値 58 mm）で平均値を上回りましたが、12 月は 25 mm（平均 39mm）と平年値の 6 割程度の降水量でした。

《令和 7 年》

1 月は 24 mm（平均値（昭和 23 年～令和 6 年の 77 年間の平均）44 mm）と平均値の 5 割程度の降水量であり、2 月は 45mm（平均値 46mm）で平年並みの降水量、3 月は 90mm（平均値 69mm）と平均値を上回る降水量となり、4 月の降水量は、23 日 0 時までの累計で平均値 90mm の約 87%（79mm）となっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1　利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和 7 年 4 月 23 日 0 時まで）

表－1　利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和 7 年 4 月 23 日 0 時まで）

単位（mm）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成２６年	18	114	75	58	83	330	192	218	87	221	70	57	1,523
平成２７年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452
平成２８年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
平成２９年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454
平成３０年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690
令和２年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和３年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和４年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
令和５年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216
平均値①（S23～R5）	44	46	68	90	117	178	201	205	209	130	58	39	1,385
平均値②（H16～R5）	43	44	71	93	118	174	224	194	203	161	57	51	1,433
令和６年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444
平均値①に対する割合	111%	141%	199%	97%	111%	81%	74%	149%	74%	95%	131%	64%	104%
平均値③（S23～R6）	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386
平均値④（H17～R6）	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433
令和７年	24	45	90	79									238
平均値③に対する割合	55%	98%	130%	87%									17%

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（76 ヶ年又は 77 ヶ年）を平均したもの
　　平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近 20 ヶ年を平均したもの

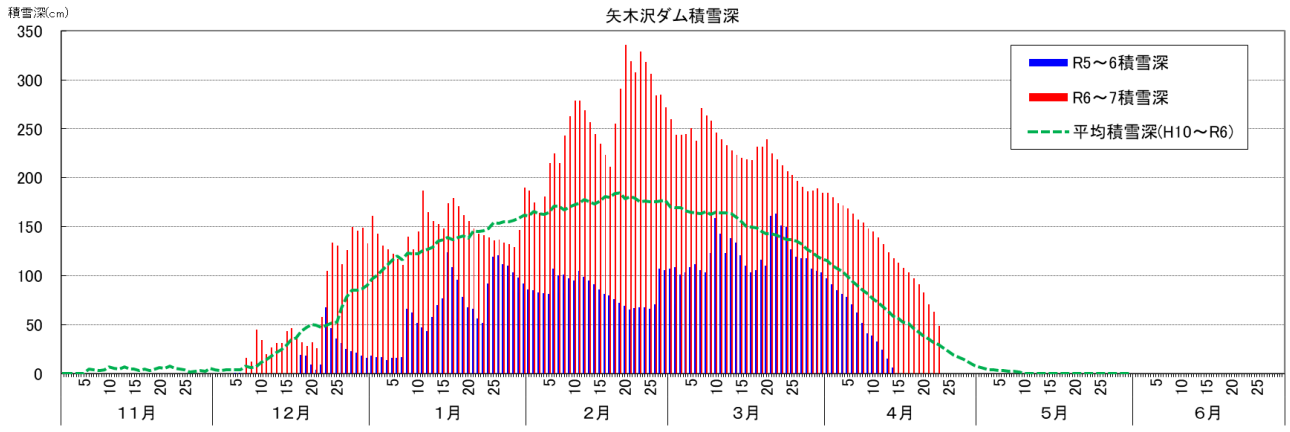
２）矢木沢ダム地点、奈良俣ダム地点、藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況
（令和６年～令和７年 冬期）

《積雪深・降雪量》

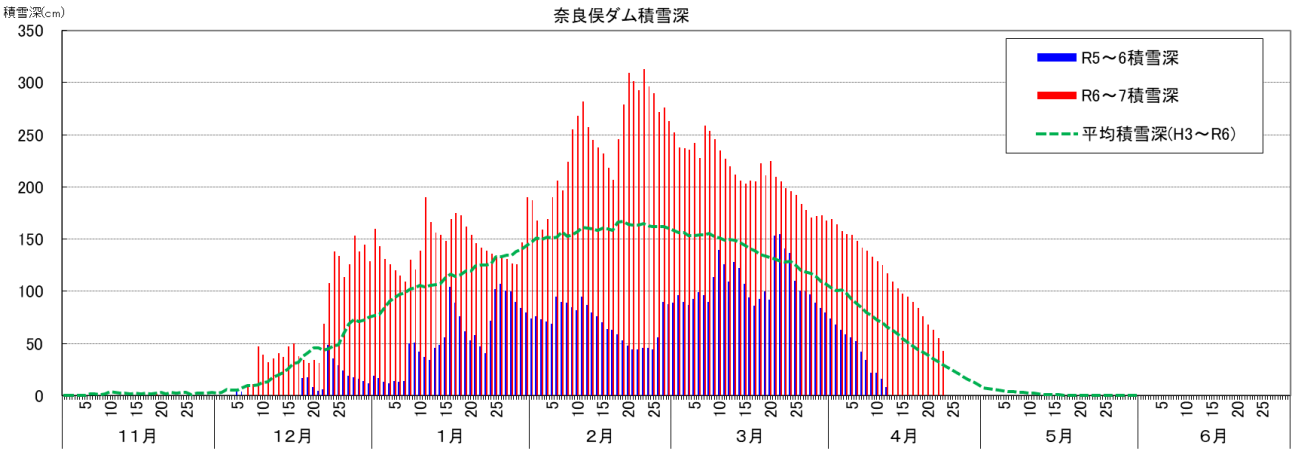
今冬は、各地点で積雪深が平均を上回りました。

藤原地点の気温は、月平均で平年に対して 12 月は-0.5℃と低く、1 月は＋0.6℃と高く、2 月は-0.8℃と低く、3 月は+0.5℃と高い気温でした。各地点の雪解けは平均と比べて長くなる見込みとなっています。（図－2～7 参照）

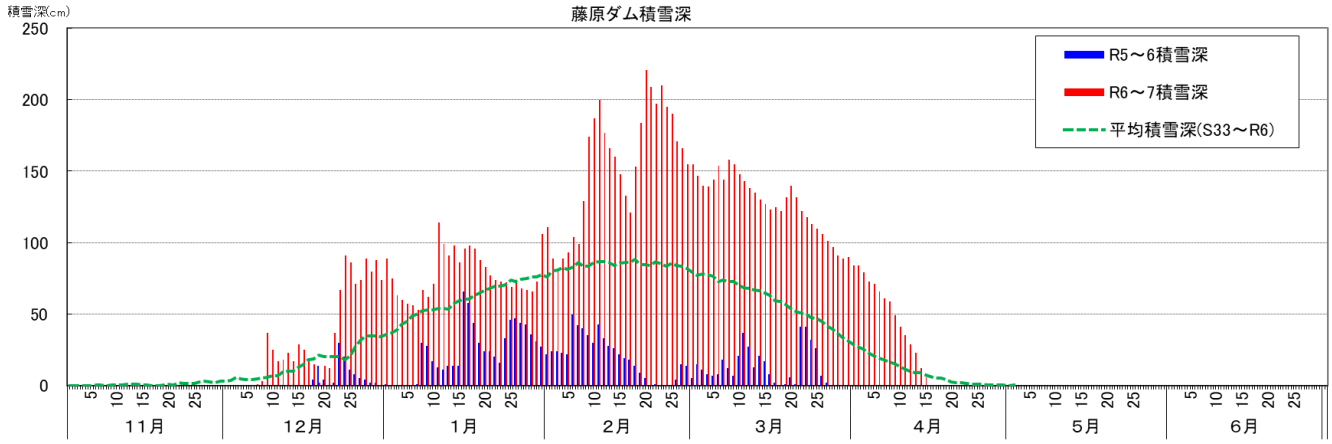
図－2　観測地点の位置



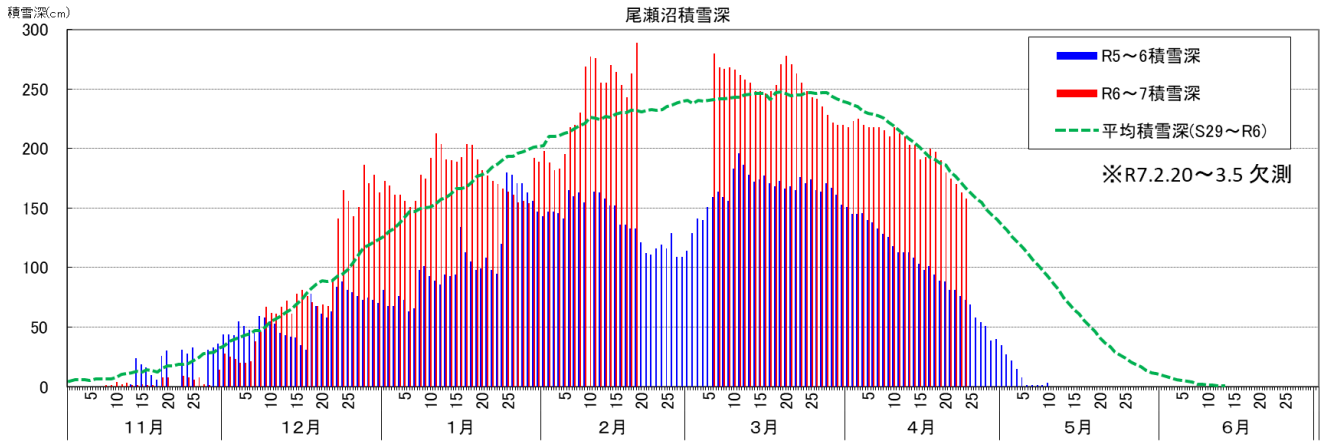
図－3　矢木沢ダム地点の積雪深（令和７年４月 23 日９時まで）



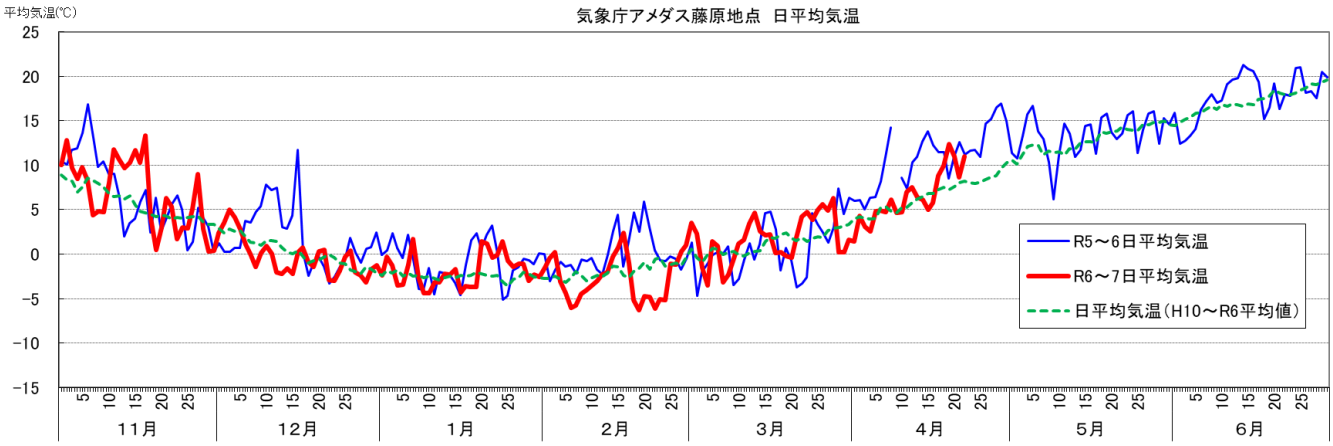
図－4　奈良俣ダム地点の積雪深（令和７年４月 23 日９時まで）



図－5　藤原ダム地点の積雪深（令和 7 年 4 月 23 日 9 時まで）



図－6　尾瀬沼地点の積雪深（令和 7 年 4 月 23 日 9 時まで）

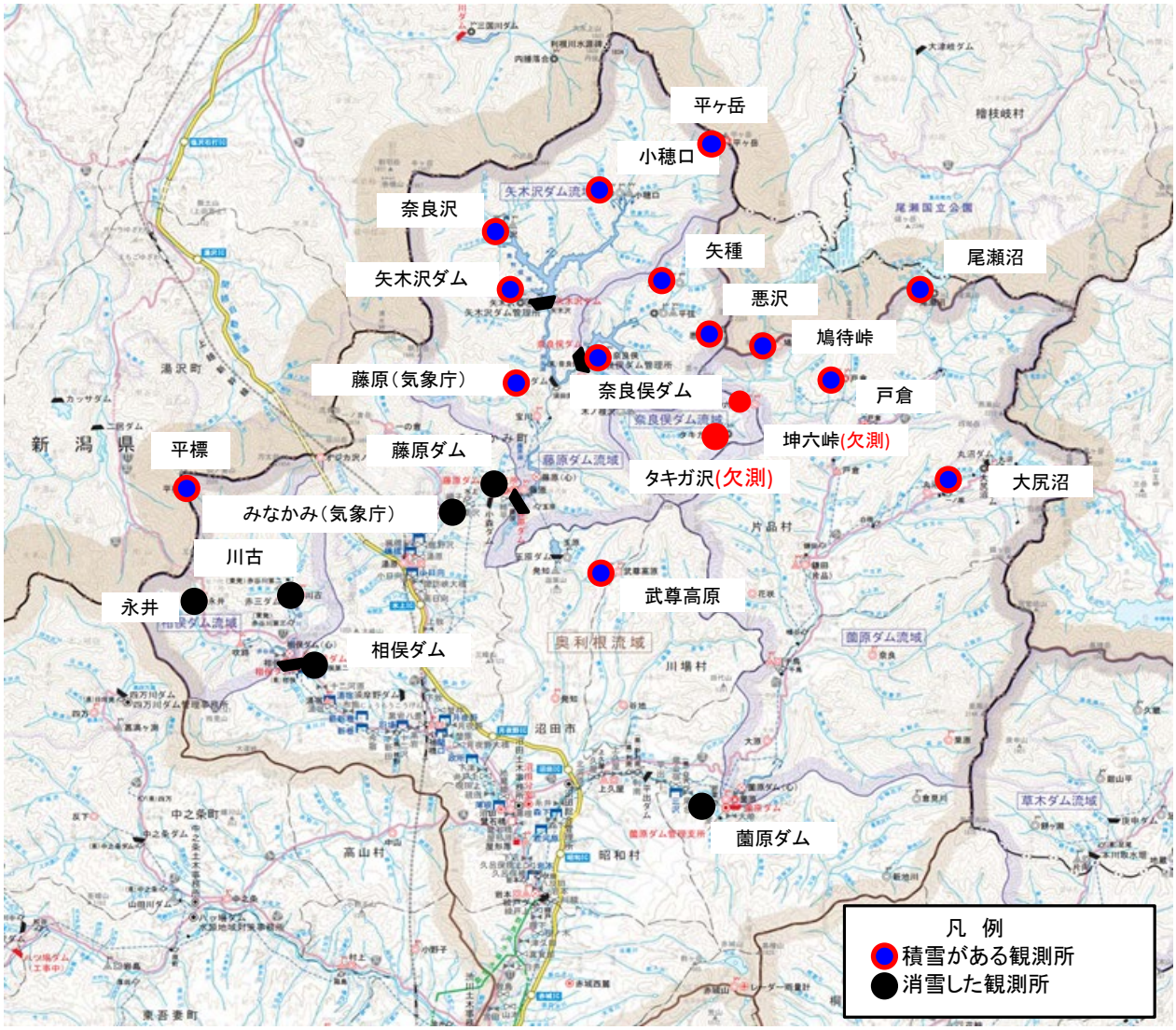


図－7　藤原地点日平均気温（令和 7 年 4 月 22 日まで）

３）現在の観測所別の積雪深状況

奥利根流域における 4 月 23 日 9 時現在、積雪がある観測所が半数以上あります。

（図－8 参照）



図－8　積雪観測所の消雪状況

４）利根川上流９ダムの貯水状況等（令和７年４月23日０時現在）

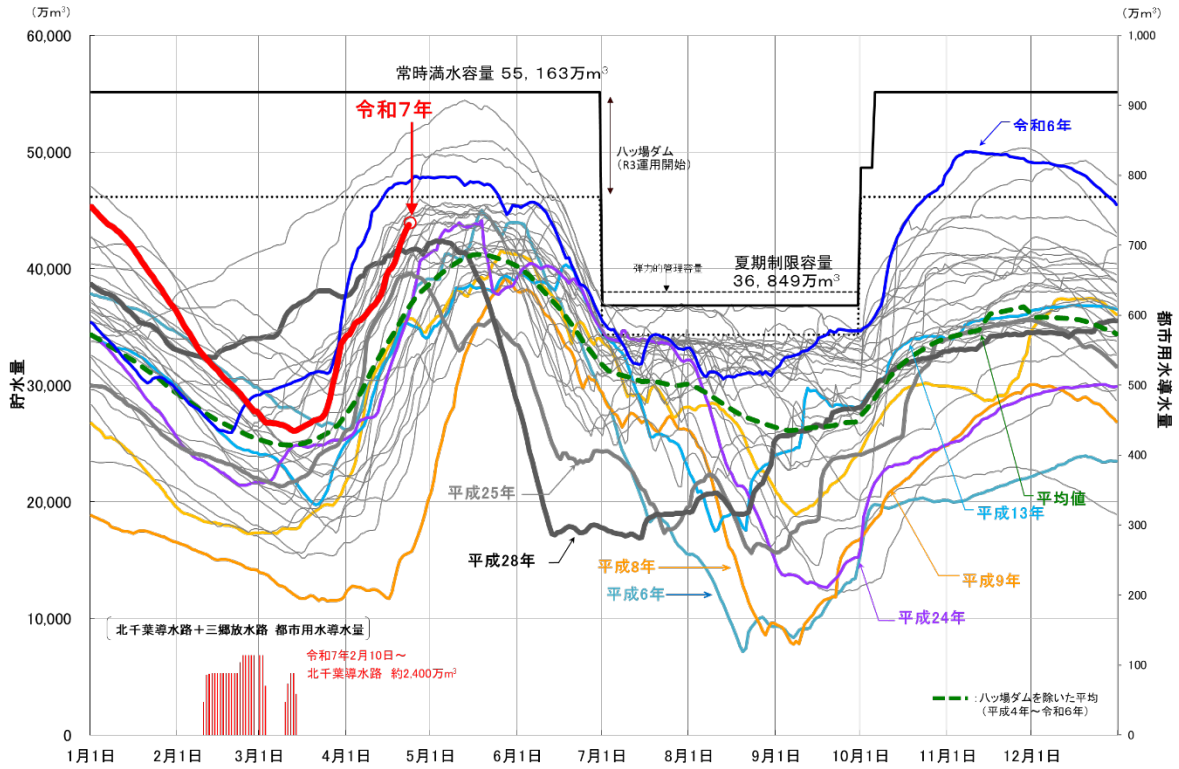
《令和６年》

10月以降は農業用水の取水量の減少により貯水量は平均値を大幅に上回る状況で推移しました。11月初旬からは、河川の流量減少に伴い都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、貯水量は減少に転じました。

《令和７年》

令和６年末からの補給状態が続き、３月中旬には平均値をわずかに上回る水準となりました。３月下旬以降、雪解けによりダムへの流入量が増した等の影響により貯水量は増加し、令和７年４月23日０時時点の合計貯水量は４億3,747万m3（貯水率約79%）となっています。

（図－9、表－2参照）



図－9　利根川上流９ダム貯水容量図（令和７年４月23日０時現在）

表－2　利根川上流９ダム貯水量（令和７年４月23日０時現在）

ダム名	有効容量（万m³）	貯水量（万m³）	貯水率（%）
矢木沢ダム	11,550	5,254	45%
奈良俣ダム	8,500	8,036	95%
藤原ダム	3,101	2,937	95%
相俣ダム	2,000	1,887	94%
薗原ダム	1,322	1,207	91%
ハッ場ダム	9,000	8,776	98%
下久保ダム	12,000	8,469	71%
草木ダム	5,050	4,904	97%
渡良瀬貯水池	2,640	2,277	86%
９ダム合計	55,163	43,747	79%
８ダム合計の平均値（平成４年～令和６年）		36,685	（平均値に対して119%）

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず８ダムの合計貯水量で計算したもの

５）北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

11 月初旬から河川の流量減少に伴い都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、春期のダム補給が厳しくなることが心配されたことから、上流ダム群の貯水量を温存するため、下流施設を活用することとし、令和 7 年 2 月 10 日より北千葉導水路により利根川下流部から江戸川への導水を行いました。

また、流況の急激な低減、降雨・雪解けによる流況回復状況等を常時監視しながら、必要なタイミングで必要な量を下流施設から導水する無駄の無い、きめ細やかな運用を実施しています。

令和 7 年 2 月 10 日からの合計導水量は令和 7 年 4 月 24 日 0 時までで、約 2,400 万㎥（27 日間）となっています。（図－9 参照）

（２）鬼怒川

１）佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和７年４月23日０時までの降水量）

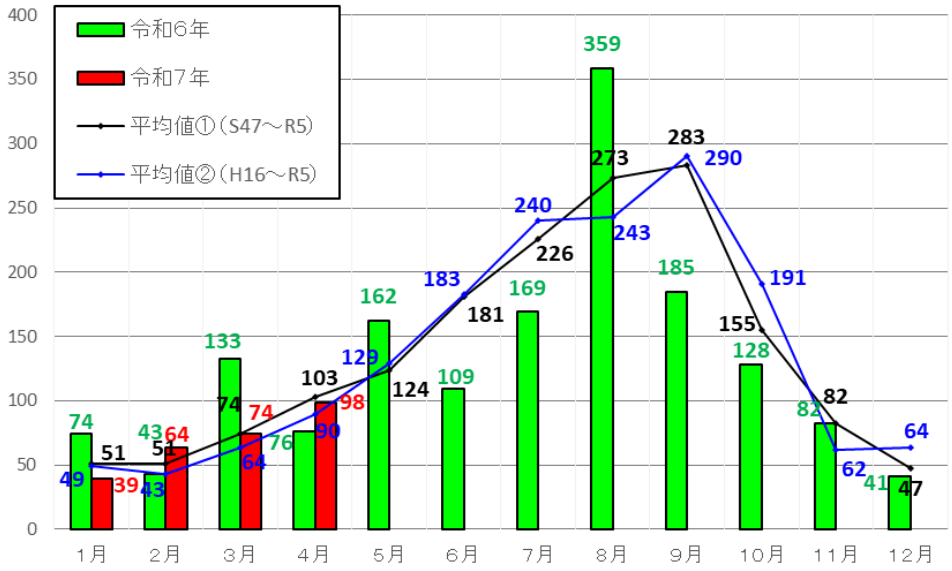
《令和６年》

10月以降の降水量は平均値（昭和47年～令和５年の52年間の平均）か平均値を下回っていました。

《令和７年》

１月は39mm（平均値51mm）で平均値（昭和47年～令和６年の53年間の平均）を下回りましたが、２月、３月は平均値並か平均値を上回る降水量となり、４月の降水量は、23日０時までの累計で平均値102mmの約96%（98mm）となっています。

（図－10、表－3参照）



図－10　鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和７年４月23日０時まで）

表－3　鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm]（令和７年４月23日０時まで）

単位(mm)	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合　計
平成２６年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957
平成２７年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成２８年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成２９年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成３０年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和２年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和３年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和４年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
令和５年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420
平均値①（S47～R5）	51	51	74	103	124	181	226	273	283	155	82	47	1,650
平均値②（H16～R5）	49	43	64	90	129	183	240	243	290	191	62	64	1,648
令和６年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561
平均値①に対する割合(%)	145%	84%	180%	74%	131%	60%	75%	132%	65%	83%	100%	87%	95%
平均値③（S47～R6）	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647
平均値④（H17～R6）	51	42	70	92	130	177	236	253	289	173	63	63	1,639
令和７年	39	64	74	98									275
平均値③に対する割合(%)	76%	125%	99%	96%									17%

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（51ヶ年又は52ヶ年）を平均したもの
　　平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

２）加仁湯地点、上馬坂地点の雪の状況

（令和６年～令和７年 冬期）

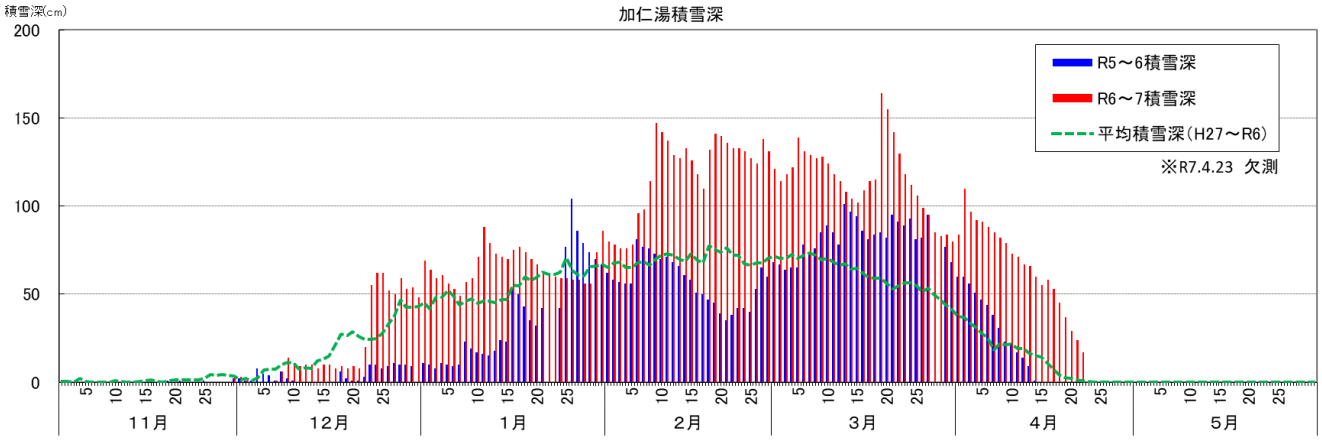
《積雪深・降雪量》

今冬は、各地点で積雪深が平均を上回りました。

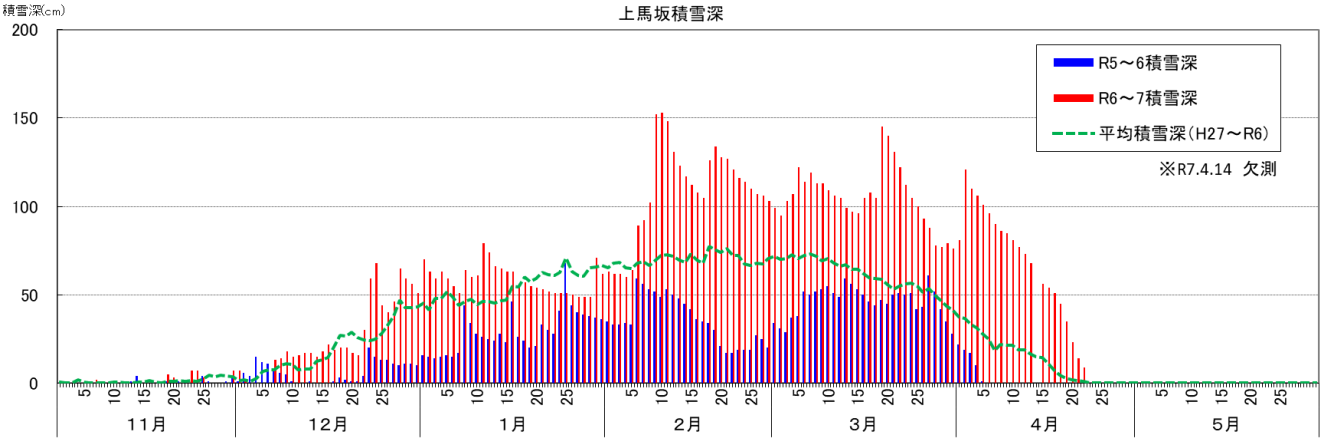
各地点の雪解けは平均と比べて長くなる見込みとなっています。

（図－11～13 参照）

図－11　観測地点の位置



図－12　加仁湯地点の積雪深（令和７年４月 23 日９時まで）



図－13　上馬坂地点の積雪深（令和７年４月 23 日９時まで）

３）鬼怒川上流４ダムの貯水状況等（令和７年４月23日０時現在）

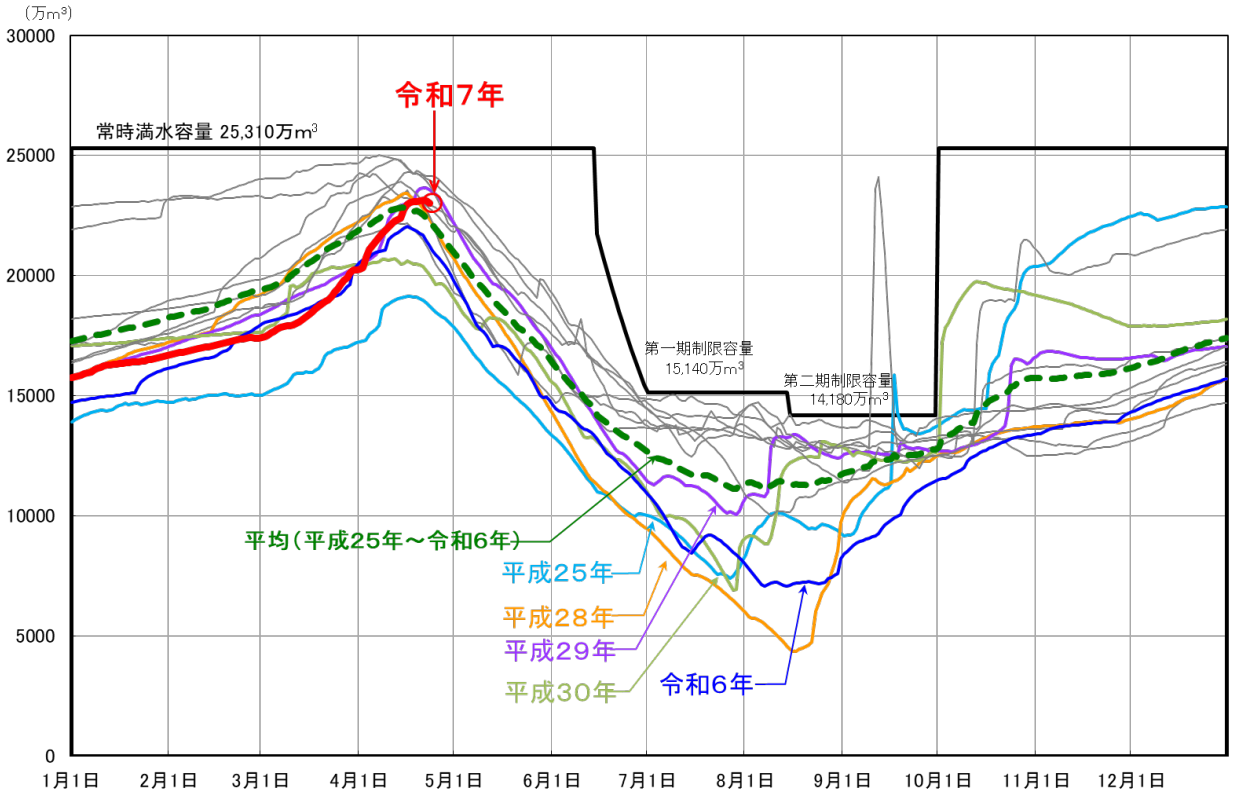
《令和６年》

４月中旬以降は農業用水の需要を受け、ダムからの補給量が増加しました。更に、６月、７月は降水量が平均値より少なかったことからダムからの補給が継続したため、７月19日より10%の取水制限を開始しました。その後、８月下旬の台風10号などの降雨により貯水量は徐々に回復し、９月以降は農業用水の取水量の減少により貯水量が増加したため、９月13日に取水制限が解除となりました。10月以降は農業用水の取水量の減少により貯水量が増加しましたが、平均値を下回る状況で推移しました。

《令和７年》

１月以降も継続して貯水量は増加しましたが、平均値を下回る状況で推移しました。３月中旬からは雪解けによりダムへの流入量が増加し、令和７年４月23日０時時点の合計貯水量は２億3,023万m3（貯水率約91%）となっています。

（図－14、表－4参照）



図－14 鬼怒川上流４ダム貯水容量図（令和７年４月23日０時現在）

表－4　鬼怒川上流４ダム貯水量（令和７年４月23日０時現在）

ダム名	有効容量（万m³）	貯水量（万m³）	貯水率（%）
五十里ダム	3,200	2,446	76%
川俣ダム	7,310	6,978	95%
川治ダム	7,600	6,634	87%
湯西川ダム	7,200	6,965	97%
４ダム合計	25,310	23,023	91%
４ダム合計の平均値（平成２５年～令和６年）		22,274	（平均値に対して103%）

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

参考

（３）荒川水系

１）秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和７年４月23日０時までの降水量）

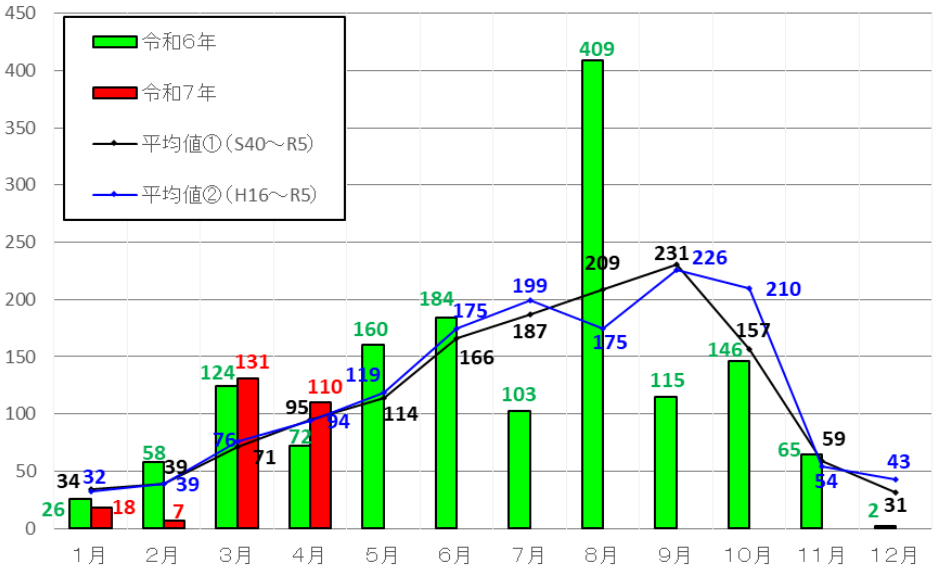
《令和６年》

10月、11月は平年並でしたが、12月は平均値31mm（昭和40年～令和５年の59年間の平均）を大幅に下回る6%（2mm）でした。

《令和７年》

１月、２月も平均値（昭和40年～令和６年の60年間の平均）を大幅に下回りましたが、３月は平均値72mmを大幅に上回る182%（131mm）でした。４月の降水量は、23日０時までの累計で平均値95mmの約116%（110mm）となっています。

（図－15、表－5参照）



図－15　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和７年４月23日０時まで）

表－5　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和７年４月23日０時まで）

単位（mm）	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合　計
平成２６年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成２７年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成２８年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成２９年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成３０年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和２年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和３年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和４年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和５年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
平均値①（S40～R5）	34	39	71	95	114	166	187	209	231	157	59	31	1,393
平均値②（H16～R5）	32	39	76	94	119	175	199	175	226	210	54	43	1,442
令和６年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464
平均値①に対する割合（%）	76%	149%	175%	76%	140%	111%	55%	196%	50%	93%	110%	6%	105%
平均値③（S40～R6）	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396
平均値④（H17～R6）	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,441
令和７年	18	7	131	110									266
平均値③に対する割合（%）	53%	18%	182%	116%									19%

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（58ヶ年又は59ヶ年）を平均したもの
　　平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

２）荒川４ダムの貯水状況等（令和７年４月23日０時現在）

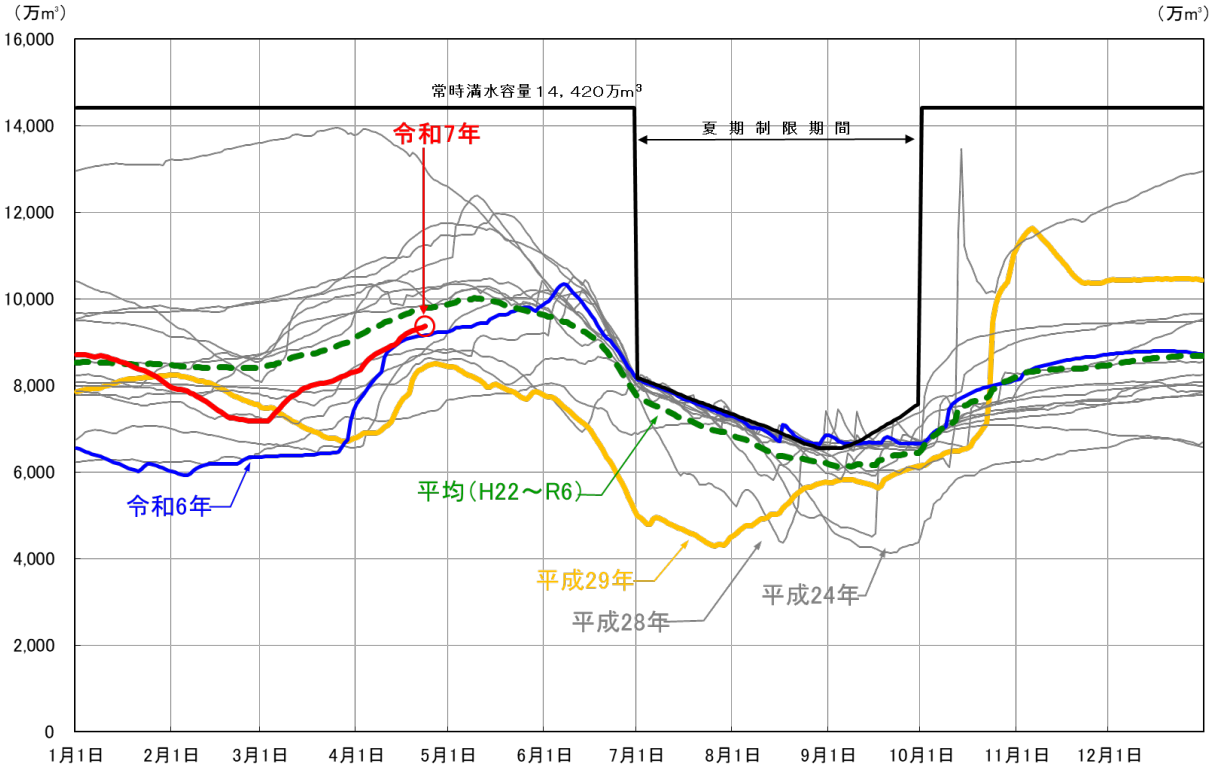
《令和６年》

10月以降、平均値をわずかに上回る水準で推移しました。

《令和７年》

１月中旬までは、平均値をわずかに上回る水準で推移しましたが、１月下旬より昨年12月からの少雨の影響を受け、都市用水を主とした用水確保のための補給によって、貯水量は減少に転じました。3月以降は降雨の影響を受けて貯水量は増加し、4月23日０時時点の合計貯水量は、9,365万m3（貯水率65%）となっています。

（図－16、表－6参照）



図－16　荒川４ダム貯水量図（令和７年４月23日０時現在）

表－6　荒川４ダム貯水量（令和７年４月23日０時現在）

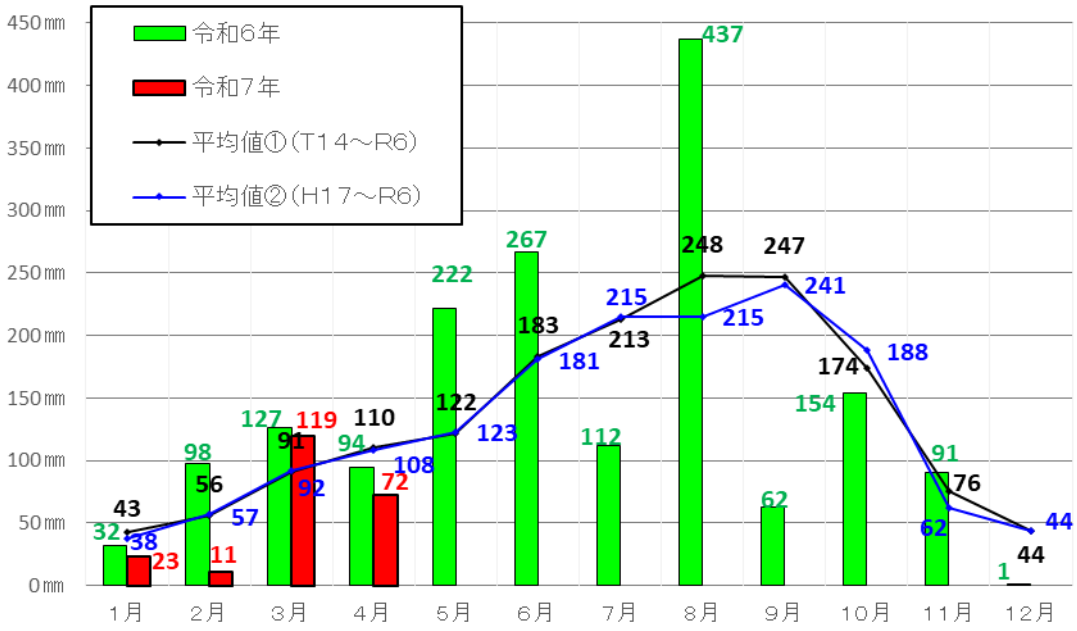
ダム名	有効容量（万m³）	貯水量（万m³）	貯水率（%）
二瀬ダム	2,000	479	24%
滝沢ダム	5,800	3,858	67%
浦山ダム	5,600	4,016	72%
荒川貯水池	1,020	1,012	99%
４ダム合計	14,420	9,365	65%
４ダム合計の平均値（平成２２年～令和６年）		9,793	（平均値に対して96%）

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

（４）多摩川水系

１）小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和７年４月22日９時までの降水量）

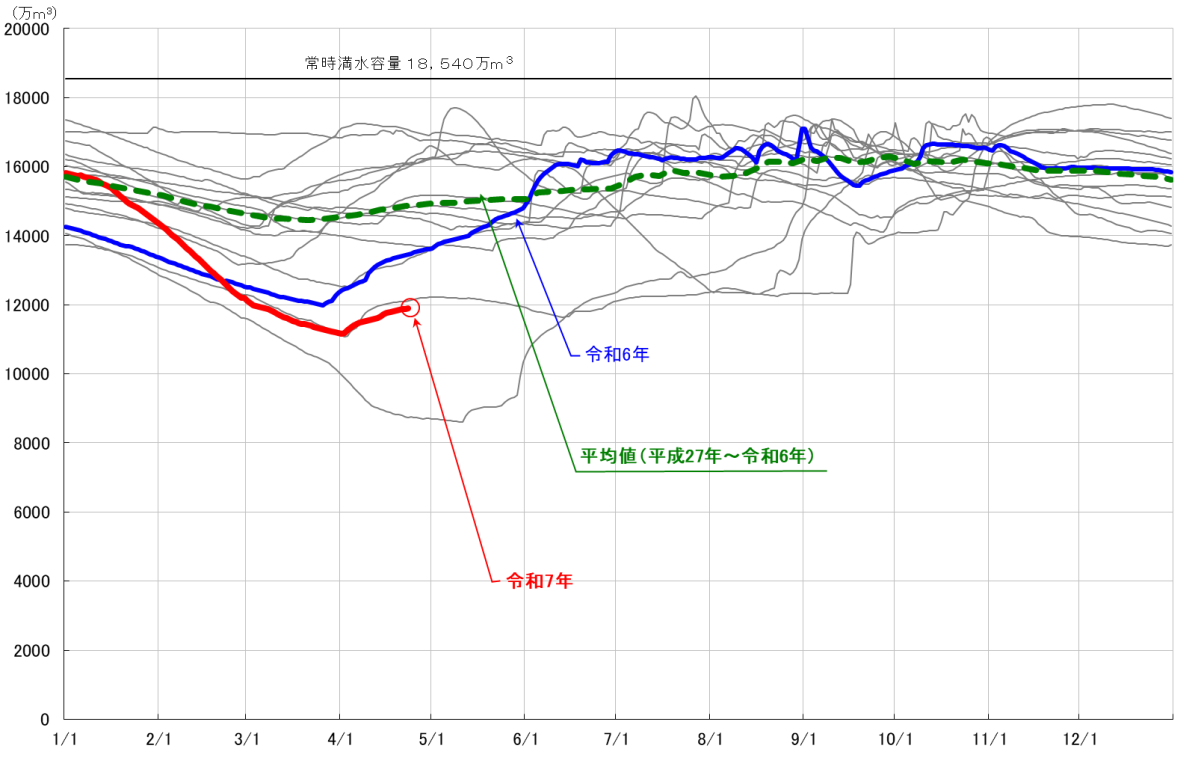
令和７年の小河内ダム地点上流域における降水量は、１月は23mm（平均値43mm）、２月は11mm(平均値56mm)で、平均値を大きく下回りましたが、３月は119mm（平均値91mm）で平均値以上となっています。４月の降水量は、22日９時までの累加で72mm(４月の月間降水量の平均値は110mm)となっています。（図－17参照）



図－17　多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和７年４月22日９時までの降水量）

２）小河内ダムの貯水状況

令和７年４月23日７時現在の貯水量は、１億1,895万m3となっています。（図－18参照）



図－18　多摩川小河内ダム貯水容量図（令和７年４月23日７時現在）

２．今後の見通し

（１）気象予報

令和７年４月17日気象庁発表の関東甲信地方の１か月予報(令和７年４月19日から令和７年５月18日までの見通し)によると、向こう１か月の降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて60%となっています。

令和７年４月22日気象庁発表の３か月予報(令和７年５月から令和７年７月までの見通し)によると、向こう３か月の降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて70%となっています。

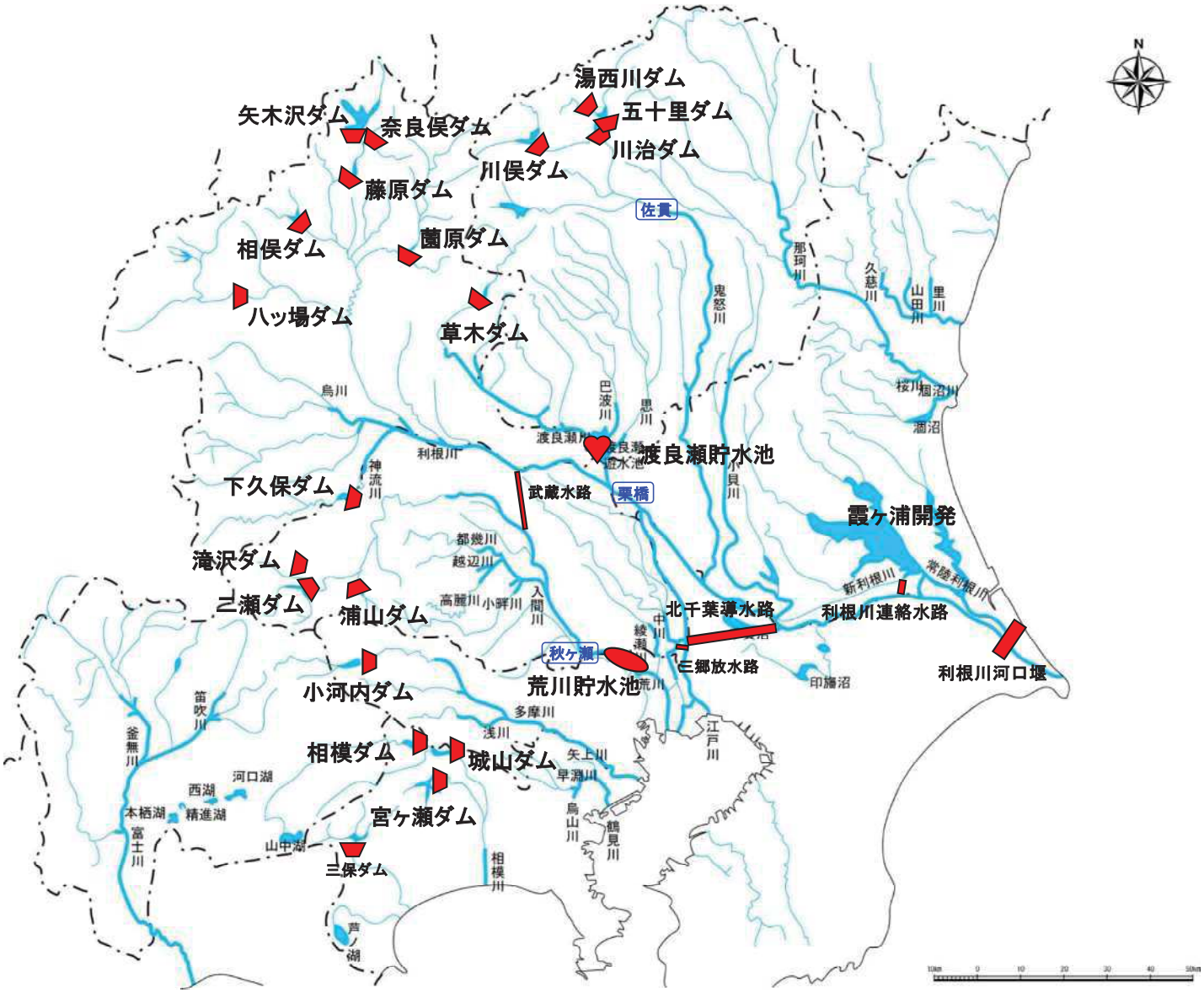
１か月予報（令和７年４月17日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	向こう１か月 04/19～05/18	10	30	60
		１週目 04/19～04/25	10	10	80
		２週目 04/26～05/02	20	40	40
		３～４週目 05/03～05/16	20	40	40
降水量	関東甲信地方	向こう１か月 04/19～05/18	40	40	20
日照時間	関東甲信地方	向こう１か月 04/19～05/18	30	30	40

３か月予報（令和７年４月22日発表）

気温、降水量の各階級の確率（%）

			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	05月～07月	10	30	60
		05月	20	40	40
		06月	10	30	60
		07月	20	30	50
降水量	関東甲信地方	05月～07月	30	30	40
		05月	30	40	30
		06月	30	30	40
		07月	30	40	30

首都圏の主要な河川と水資源開発施設